

平成21年度 日本家政学会

色彩・意匠学部会報

No. 6

発行日 平成22年3月31日
発行人 日本家政学会色彩・意匠学部会編集発行
事務局 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
東京家政学院短期大学被服構成学立体研究室(井澤)
TEL:03-3262-2692 FAX:03-3262-2174

《平成21年度総会報告》

新型インフルエンザによる日本家政学会第61回大会延期により、書面にて臨時総会とした。以下の議事について報告を行い、承認された。

議事

平成20年度事業報告

1. 総会

平成20年8月25日(月) 琵琶湖ホテル

2. 役員会

平成20年8月25日(月) 琵琶湖ホテル
平成21年2月28日(土) 日本女子大学

3. 連絡懇談会

平成20年6月1日(日) 日本女子大学(日本家政学会第60回大会会場)

4. 平成20年度夏季セミナー

平成20年8月25日(月)～26日(火)
琵琶湖ホテル・太田藤三郎組紐工房

<プログラム>

● 8月25日(月) 会場：琵琶湖ホテル

講演：「源氏物語と日本の色」

講師：染色家 吉岡幸雄氏

● 8月26日(火) 会場：大田藤三郎組紐工房

大田藤三郎組紐工房見学と組紐製作体験

講師：大田藤三郎氏

5. 情報交換会

平成20年度8月25日(月) 琵琶湖ホテル

6. 共同研究打ち合わせ

平成20年度8月25日(月) 琵琶湖ホテル

7. 講習会

平成21年2月28日(土) 日本女子大学

8. 平成20年度役員構成

部会長：橋喬子

副部会長：橋本令子、成田巳代子

常任委員：

<庶務>石原久代、畑久美子、内藤章江、小町谷寿子

<会計>井澤尚子、佐々木由美子

<会報>武井玲子、花田美和子

<セミナー>成田巳代子、田岡洋子、宮武恵子、
橋喬子

<春季講習会>小吹史子、蒲池香津代、畑久美子

<共同研究>橋本令子、伊藤陽子

<顧問>吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝

<監事>斎藤祥子、芦澤昌子

9. 平成20年度会計報告

平成20.4.1～平成21.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	69,546	管理関係費	24,330
部会費	38,000	事業費関係	504,904
シンポ・講演参加費	417,000	投資活動支出	20,000
		次年度繰越金	9,312
合計	558,546	合計	558,546

以上の報告通り相違ありません。

監査 芦澤 昌子 印(平成21年4月4日)

斎藤 祥子 印(平成21年4月4日)

平成21年度事業計画

1. 総会

平成21年5月30日(土) 武庫川女子大学
(日本家政学会第61回大会会場)
→新型インフルエンザによる日本家政学会第61
回大会延期により、書面にて臨時総会とする

2. 役員会

平成21年8月24日(月) 花王株式会社栃木工場
平成22年3月6日(土) 白河院

3. 連絡懇談会

平成21年8月25日(火) 御薬園(夏季セミナー
会場)

4. 平成21年度夏季セミナー

平成21年8月24日(月)～8月25日(火)
花王株式会社栃木工場/ヒューマンヘルスケア
研究センター・御薬園

5. 情報交換会

平成21年8月24日(月) 夏季セミナー宿泊
ホテル華の湯

6. 共同研究打ち合わせ

平成21年8月24日(月) 夏季セミナー宿泊
ホテル華の湯

7. 講習会

平成22年3月6日 IANT (NPO インターナシ
ョナル自然染色委員会)

8. 平成21年度役員構成

部会長 : 橋本令子
副部会長 : 成田巳代子、石原久代
常任委員 :
＜庶務＞小町谷寿子、花田美和子
＜会計＞井澤尚子、佐々木由美子、小吹史子
＜会報＞蒲池香津代、内藤章江
＜セミナー＞武井玲子、井澤尚子
＜春季講習会＞田岡洋子、近藤信子、宮武恵子
＜共同研究＞伊藤陽子、橋本令子
＜顧問＞吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝、盛田真千子
＜監事＞芦澤昌子、斎藤祥子

9. 平成21年度予算案

平成21.4.1—平成22.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	9,312	通信費	15,000
平成21年度 部会費	40,000	事務費	5,000
平成21年度夏 季セミナー会費	360,000	印刷費	10,000
		会議費	9,000
		夏季セミナー 開催費	360,000
		雑費	1,000
		次年度繰越金	9,312
合計	409,312	合計	409,312

《 夏季セミナー報告 》

平成21年度(社)日本家政学会色彩・意匠学部会第
31回夏季セミナーが平成21年8月24日(月)～25
日(火)、花王株式会社(栃木県芳賀郡)、御薬園(会津
若松市)で開催された。24日は、工場・研究所見学、
講演会、部会報告が行われ、その後、宿泊先の磐梯熱海
温泉「華の湯」に移動し、夕食を楽しみながら懇親会、
情報交換会、共同研究討論を実施した。

25日は、600年前は領主の別荘であった御薬園にて、
太陽の下、蝉の声を聞きながら会津塗蒔絵師の第一人者
2代目照井克彦氏と若手蒔絵師として注目されている3
代目照井克弘氏の指導による蒔絵制作体験、会津食文化
研究家・郡山女子大学の平出美穂子氏の説明を伺いなが
ら会津郷土料理の昼食、午後から会津漆器・蒔絵に関す
る講演を聴講し、2時半に現地解散した。

＜プログラム内容＞

●8月24日(月) 会場：花王株式会社
11:30 JR宇都宮駅に集合後、チャー
ターバスで花王株式会社に移動
12:20～13:30 開会挨拶、昼食、ビデオ(KAO
TODAY)、部会報告
13:30～15:30 工場・研究所見学、研究開発説
明(豊島泰生氏：サニタリー研
究所、深川幸子氏：メディア企
画センター)
17:00～18:15 新幹線にて移動(宇都宮駅→郡
山駅)下車後、送迎バスで磐梯
熱海温泉「華の湯」へ
19:00～21:00 夕食・懇親会・情報交換会
21:00～ 共同研究打ち合せ

1) 花王株式会社における講演、工場・研究所見学
 <講演>

「生理用ナプキンおよび紙おむつの現状と開発動向」

講師：豊島 泰生氏（サニタリー研究所）

12～49歳の約3千万人の女性がナプキン使用中であり、女性は生涯のうち8年間は月経期間となり生涯使用枚数は1万2千枚になる。このように使用されるナプキンに対して肌ストレスフリーを目指し、不織布開発と皮膚科学研究、被服生理学的研究を融合させて「超吸収ファイバー」を表面材として用いることで新製品を誕生させてきた。

ベビー用・介護用紙オムツに関しては、通気性、装着性、フィット性に配慮したオムツの開発、腰骨の位置にずれ防止ポイントギャザーを配置し、お腹を締め付けずにズレ落ちないパンツ型オムツを開発している。花王のこのような研究開発は、基盤技術研究と商品開発研究をマトリックス的に融和させる柔軟なシステムで運営しており、ここに特徴がある。

<工場・研究所見学>

全員防塵服を着用し（写真）、原料である表面材の不織布、吸収体の綿状パルプや高分子吸収剤等がベルトコンベアに次々に乗せられ、目にもとまらぬ速さで1枚のナプキンが完成する製造プロセスを見学。当初予定の紙おむつ製造工程は稼動していないため見学はできなかったが、ナプキンと同様なプロセスとの説明を受けた。

また、研究所見学では、自由な雑談、まじめな雑談を大切にという主旨で大部屋制が採用されている広い研究スペースの一角にあるコンピュータ制御の人体モデル（女性、乳児、高齢者）を実際に稼動させていただきながら、ナプキン、紙オムツ研究の進め方などを伺った。



防塵服を着用して工場見学

●8月25日（火） 会場：御薬園

8：46～10：00 JR 磐越西線にて移動（磐梯熱海駅→会津若松駅）、
下車後、タクシーで御薬園へ

- 10：00～12：15 蒔絵体験（溜塗り8寸盆にカシュー塗料で蒔絵制作）
御薬園見学
- 12：15～13：15 昼食：会津郷土料理
- 12：45～13：15 講演：「会津郷土料理の歴史と食文化」
（平出美穂子氏、郡山女子大学）
- 13：15～14：30 講演：「会津漆器と蒔絵の歴史と文化」
（照井克彦氏、伝統工芸師）
- 14：30 現地解散
- 10：00～12：30 工房見学と組紐製作体験
- 12：45～ 昼食（うなぎのかねよ）
- 14：00 解散

2) 御薬園における会津塗講演および会津塗蒔絵体験
 <講演>

「会津塗伝統工芸の歴史と文化」

講師：照井 克彦氏（会津漆器蒔絵師）

会津塗りは、1501年室町時代芦名氏が領主の頃に始まり、それ以来代々その技術が受け継がれてきたが、1590年蒲生氏郷がこの産業に力を入れ、会津の気候風土とともに育てられてきた。徳川末期の松平氏時代には、金粉、金箔が作られるようになり、消粉蒔絵の技術が起り、現在の隆盛となった。会津塗は、分業制で生地師、塗師、蒔絵師に分かれている。生地師は、良質の木材から器の原型を造り、塗師は生地に朱や黒の漆を塗る。塗をほどこされた漆器に飾りを加えるのが蒔絵師で、椀や盆等に美しい花鳥画を描く。蒔絵は、上塗の漆の下から金銀を浮かび上がらせる研ぎ出し技法、貝殻をはめこむ螺鈿、卵殻を張りつけたり、切金といってスズや金銀を板状にして張りつけたりもする。

蒔絵制作体験は、下地の段階で赤い色を着色し仕上げに半透明の漆を塗り、下の赤が上の漆を通して見える塗り方の溜塗り8寸の盆に、カシュー染料で各自思い思いの絵柄を描いた。最後に、3代目照井克弘氏の手によって沈金仕上げが施されると、高級感あふれた作品に仕上がりが、大きな歓声があがった。



世界に一つ、オリジナルな蒔絵のお盆を手に

3) 会津郷土料理講演と昼食

会津地鶏、会津こづゆなど会津の素材や料理からなる会津膳の昼食のレシピについて、ご恵与された平出美穂子氏著作本と共にご説明いただき、起源、食習慣、等の知識を深めた。また、戊辰戦争時、会津藩は旧幕府軍として新政府軍と戦い、鶴ヶ城での籠城戦を1ヶ月続けた後降伏したが、その籠城時の食事の再現等、限られた時間ではあったが、会津の食文化の奥深さを知ることができた。



会津膳の一部

本年度の夏季セミナーは、移動距離が長く、余裕の無い日程となってしまったが、参加者のご協力で無事終了でき、感謝の気持ちで一杯である。

(夏季セミナー実行委員長 武井玲子)

《 色彩・意匠学部会共同研究について 》

◆ ユニバーサルデザインに関する研究

平成17年度夏季セミナーを機に実施してきた「ユニバーサルデザインに関する研究」の発展段階として今年度は「公共トイレの視認性について」研究対象項目を限定して下記の演題にて研究発表を行った。

平成18年度、19年度に引き続き日本家政学会第61回において発表した概要を次に紹介する。

ユニバーサルデザインに関する研究 (5)

一 公共トイレの視認性について

形からのアプローチ

伊藤 陽子 (発表者) : 芦澤 昌子 蒲池 香津代 斉藤 祥子 田岡 洋子 武井 玲子 橋 喬子 井澤 尚子

【目的】2007年度より継続して発表している「ユニバーサルデザインに関する研究」においての視認性について、形からのアプローチをより深く研究検討し、そこにユニバーサルデザインに関しての問題点を探す。

【方法】2007年10月～2009年1月にかけて、研究メンバーが全国各地において行った公共トイレを視認性、使用性の視点から撮影した写真を分析、評価を行った。視認性をより追求するためにピクトグラムに注目し、

JIS規格、ISO規格についての観点からも調査した。

【結果】研究メンバーが調査してきたトイレ案内は現在の街での調査である。日本では1964年、東京オリンピックの競技案内用として、ピクトグラムが最初に使用され、1970年の大阪万国博覧会を経て少しずつ社会へ浸透したが、それ以前は文字で示されていた所が多い。2002年3月にJIS(日本工業標準)規格により案内用図記号の標準となるものが示され、経済産業省は2005年5月に「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則(JIS T0103)の規格を制定した。これは文字や話し言葉によるコミュニケーションの困難な人が、自分の意思や要求を相手に的確に伝え、正しく理解してもらうことを支援するための絵記号に関するJISであった。ここでは男女が中央線を挟んで並んで立っているトイレのマークがある。現在トイレに良くある「男子」「女子」のマーク、また、ISO(国際標準化機構)規格による案内用図記号も存在する。これら定められた記号と現在街で使用されている記号、それらには種々の形があり似てはいるが統一されてはいない。この疑問点を示す。

ユニバーサルデザインに関する研究(6)

公共トイレの視認性 — 色彩からのアプローチ —

佐々木由美子(発表者): 畑 久美子 井澤 尚子 長塚 こすえ 成田 巳代子 花田 美和子

【目的】前報では、公共トイレに関わる表示を主に形から検討したが、本報では色彩に注目し、ユニバーサルデザインに関しての問題点を探す。

【方法】2007年10月～2009年1月にかけて、研究メンバーが全国各地において公共トイレを視認性、使用性の視点から写真撮影し、その分析、評価を行った。

【結果】トイレにたどり着くまでの誘導となる表示と、トイレの入り口にある表示にわけて検討した。誘導表示はトイレのみを記した場合と、他の施設設備と併記の場合があるが、トイレを表す記号としては、男女が中央線を挟んで並んで立っているピクトグラム、文字、それらの併用が見られる。その配色は、ピクトグラムの男女が同色であるものと、男女で色分けされているものに大別できる。色覚正常者には女性のマークを赤系で示したピクトグラムは視認性が高いが、色覚異常者にとっては背景色によっては同化してしまい記号として認識すらできない場合もあるので、ユニバーサルデザインの観点からは問題である。トイレの入り口付近では男・女・多目的トイレ等、それぞれに表示があり、誘導表示に比較すると表示が大きいことも多く、多種多様である。ここでも記号や文字と背景との配色で誘導表示と同様の問題点を認めた。現在では多くの自治体でカラーユニバーサル

デザインのガイドライン等の作成・配布などを行い、色覚に配慮するよう呼びかけており、その浸透が望まれるが、現状ではこのような結果を得た。

(研究グループ代表：伊藤 陽子)

◆ 色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究

本研究は、衣服の色表示の改善方法を社会に向けて提案、発表するため、衣服におけるカラーユニバーサルデザインについて研究を進めることを目的に平成19年度から調査を開始した。日本家政学会第60回大会では衣服自体の表示方法、店舗での販売方法、消費者の意識など現状把握するための実態調査結果を発表した。平成20年度は、前報の結果をふまえ、具体的な色表示の方法を検討するために、色弱模擬フィルタを用いた実験、さらに慣用色名を用いた認知度調査を実施し、その結果を日本家政学会第61回大会において発表したのて下記に報告する。

(3) 慣用色名の認知度の検討

井澤尚子(発表者)、橋本令子、内藤章江、石原久代、稲垣有美子、田岡洋子、成田巳代子、橋 喬子、芦澤昌子

【目的】前報までの報告で、ほとんどのアパレル商品のタグや品質表示には、色弱者に対しての配慮がされていないことがわかった。そこで本研究は、色弱者に配慮し、色弱者と一般色覚者が同様の立場で、衣服の色表示が識別できる方法の提案をすることを目的とした。色表示の方法を検討するにあたり、まず一般消費者の色名の認知度を測定するために、日常的によく使われ、色を連想できるとされる慣用色名を用いて調査を行った。

【調査及び解析方法】色彩学などの知識のない一般男性297名を対象に、2008年9月～11月に「質問紙留め置き調査」を実施した。調査内容は、基本属性、先行研究結果を参考に選んだ慣用色名184色(和色名112色、英色名72色)を試料にして、それぞれの認知度を三段階で回答してもらい、解析には単純集計、平均、標準偏差、年代間の検定を用いて結果を考察した。さらに、その結果を基に、色弱模擬フィルタを用いた色の判別実験を行い、色弱者がどの程度色を識別し、把握しているかを模擬的に検討した。

【結果及び考察】色名認知度調査の結果から、女性に比べ男性の方が色名についての関心がうすいと考えられる。「色名も色も知っている」認知度60%以上の色相別出現数は和色名ではR系、YR系、GY系、PB系、英色名ではR系、YR系、Y系が多く、全体ではR系、YR系、Y系、PB系、P系の出現数が多い。和色名では有彩色基本色名の赤・黄色・黄緑・緑・青・紫、赤紫、無彩色基本色名の白・灰色・黒、金色、銀色の認知度が高い。

さらに、「色名も色も知っている」平均認知度70%以上の和色名43色、英色名20色を試料に色弱模擬フィルタを用いて判別実験を行いグループ化した結果、同色に見えるとして和色名10グループ、英色名8グループに分けられた。グループごとの色名・マンセル値をみると、明らかに異なった色相、色みの色名が混在しており、色弱者にとっても衣服の色表示に慣用色名を用いることは有効であると考えられる。

(研究グループ代表：井澤尚子)

(4) 色弱模擬フィルタを用いた色の判別実験

石原久代(発表者)、橋本令子、内藤章江、井澤 尚子、田岡洋子、成田巳代子、橋 喬子、稲垣有美子、芦澤昌子

【目的】社会において色は重要な情報伝達手段であるが、それらの色使いは正常色覚者を対象としたもので、色弱者に対する配慮は一部を除いてほとんどされていない。特に衣服については単に識別だけでなく、コーディネートの観点から商品の色そのものを把握する必要がある。そこで、我々は色弱者に配慮した衣服の色表示について提案するために、これまでアパレル商品のタグや品質表示の現状、色表示に対する衣服購入者と衣料品販売員の意識について報告してきた。本報では、色弱者が色をどのように識別し把握するかについて、色弱模擬フィルタを用いた実験を行い、検討した。

【方法】試料は、PCCSのv1～v24とdp・dk・p・lt・b・sf・d・ltg・g・dkgの偶数番号およびW・Blk・Gy15色の計161色の3cm角の色票を用いた。実験は、正常色覚の女性76名、男性24名の計100名に色弱模擬フィルタ「バリエーション」を装着させ、グレー台紙上にて同じ色に見える色票を25～30グループにまとめ、色名を回答させた。解析は、単純集計の他、性差の検定、出現についてはコレスポネンス分析、クラスター分析を用いた。

【結果及び考察】回答された色名は計2731色であり、うち系統色名が48%、慣用色名が51%であった。また系統色名で約70%、慣用色名で約50%が修飾語を付けて表記された。男女間では緑色相に1%で有意な差が認められた。さらに被験者についてクラスター分析を行った結果、黄赤、紫、灰色、青に特徴のある4クラスターに分類された。コレスポネンス分析においては3次元抽出の結果、色弱者に判別困難な赤・緑は黄赤や灰色と混在して出現し、低明度色は黒と評価される傾向が認められた。

(研究グループ代表：石原久代)

《お知らせ》

平成22年度色彩・意匠学部会夏季セミナー

平成22年度色彩・意匠学部会総会及び夏季セミナーを下記の通り、開催致します。部会員はじめ、部会員以外の方々のご参加も歓迎いたしますので、皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さいませ。

期日：平成22年8月26日（木）、27日（金）
会場：蒲郡商工会議所（愛知県蒲郡市港町18-23）
内容：講演1 「色彩は万能か、万能か。」
小町谷朝生氏
（元日本色彩学会会長 現在文星芸術大学教授）

講演2
「色弱模擬フィルター（バリエーション）の
開発（仮題目）」
伊藤光学工業株式会社 加藤裕久氏

見学1 産業技術研究所三河繊維技術センター

見学2 伊藤光学工業株式会社豊川工場

見学3 夢織人（三河繊維産品アンテナショップ）

情報交換会：ホテル竹島

◆申し込み・問い合わせ先：
〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40
名古屋女子大学家政学部
TEL 052-852-9579・9591
e-mail ishihara@nagoya-wu.ac.jp 石原久代
hisako@nagoya-wu.ac.jp 小町谷寿子

色彩・意匠学部会規程

第1章 総則

- 第1条 この部会は色彩・意匠学部会と称する。
第2条 この会は、(社)日本家政学会の全国的な会員の交流をはかり、色彩・意匠の学術・研究の成果を高め、家政学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第3条 この会はその目的を達成するために次の事業を行なう。
- 1) 研究会
 - 2) 研究発表会・討議会
 - 3) 講習会（セミナー）
 - 4) 研修・見学会
 - 5) 成果の印刷物配布
 - 6) その他の必要とする事業

第4条 この事業の年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わりとする。

第3章 会員

第5条 この会は(社)日本家政学会の会員をもって構成する。

第4章 役員

第6条 この会の運営を円滑にするため次の役員をおく。

部会長	1名	(付1)
副部会長	2名	
監事	2名	
常任委員	若干名	

第7条 役員の職務は互選によって定め、総会の承認を得る。

第8条 役員の任期は2年とする。ただし再選をさまたげない。

第5章 会費

第9条 本会の会費は年額千円とする。

付則

この規程は昭和53年4月1日より施行する。

この規程は昭和58年8月26日より改定施行する。

この規程は平成元年8月22日より改定施行する。

この規程は平成15年8月28日より改定施行する。

申し合わせ事項

1. 役員の職務は庶務・会計・セミナー・企画の係を分担する。
2. 庶務・会計は会員の中から補佐を依頼することが出来る。
3. 事務局は会計責任者の勤務先住所とする。（付2）
4. 会計は会計責任者名で口座を開設する。

(付1)：部会長連絡先（平成21年4月1日から）

〒464-8662 愛知県名古屋市中千種区星ヶ丘元町17-3
椋山学園大学 橋本 令子
TEL：052-781-1186 FAX：052-782-7265
e-mail：h-reiko@sugiyama-u.ac.jp

(付2)：事務局連絡先（平成22年4月1日から）

〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地
東京家政学院大学 大江スミ記念棟 0402 研究室
井澤尚子 TEL042-782-9811（代表）
e-mail：isawa@san-kasei-gakuin.ac.jp

(部会費振込み先) 口座番号：0014-5-389316

口座名義：色彩・意匠学部会

<編集後記>

冬季五輪も終わり日本中の期待を背負った浅田真央選手は銀メダル、対するキム・ヨナ選手は、コーチングチームによる綿密な計画の上に今大会での勝利を勝ち取った。19歳にして世界の頂点を競い合う選手たちの日頃の鍛錬や精神力はいかばかりであろうか。私たちの接する同世代の学生たちの可能性は無限であり、気の引き締まる思いがする。色彩・意匠学部会部会員の益々のご活躍をお祈りしております。

(担当：蒲池、内藤)